

# 喜多方高校 進路だより

(第10号)



2020年10月30日(金)

喜多方高校進路指導部

福島県「大学進学のための学力向上推進事業」

## 外部人材活用講座報告 ～生徒の事後感想より～

〈令和2年10月9日実施

1, 2年生全員および3年生希望者対象〉

人文分野(福島大学 菊池 芳朗 先生)

「考古学とは何か～大学での学び」

今まで考古学ということについて「発掘する」「歴史について知る」ということでしか知らなかった。今回、詳しく知ることができて良かった。考古学といっても発掘だけではなく、それ以外にも座学などで様々な勉強をするということも初めて知った。また、考古学にも種類があり、外国の考古学や古代・中世考古学など、様々な考古学があるため、大学によって学ぶ「時代」や「地域」が違うらしい。よって、自分が行きたい大学で、自分が学びたい時代と地域の考古学が学べるのか、しっかり調べる必要があると思った。



外国語・異文化分野(山形大学 天野 尚樹 先生)

遠隔 WEB 講義「世界の分かれ方」

ボーダーがいっぱいなボーダーフルという世界は安心で安全というメリットがあるが、そのボーダーは人それぞれに決められているため、辛かったり苦しいというデメリットがある。ボーダーの内側の人間が内側を動くとき、内側の人間が外側へ動くとき、外側の人間が内側へ動くとき、それぞれにおいて何故そんなにも差があり問題があるのか不思議に思った。今回、例としてあげられたボーダー以外にもどのようなボーダーがあるのか、日常生活でのボーダーを見つけてみたいと思った。



経済分野(高崎経済大学 藤本 哲 先生)

「商いの経済原則：未利用資源の発掘と顧客の創造」

産地と需要地で、なぜ価格に大きな差があるのかということをおもひに深く考えたことがなかった。各産地としては、それを作るうえでの機構が整っていたり、大消費地(東京を中心とする首都圏)への距離が近く鉄道や高速道路が整備されていたり、あるいは豊富な資源があるということで安価になることがわかった。逆に需要地では、その地で生産がされていないため供給よりも需要が上回ることがわかった。人には、その土地でありふれているものが売り物にならないという考えがあるらしく、逆にあまり見慣れないものには価値をつけたがることもわかった。



教育分野(福島大学 佐藤 佐敏 先生)

「誤読と脳の不具合～教師はどのように支援したら良いか」

私もよく思い込みや勘違いをする。何故そういったことが生じるのか不思議に思っていたが、それが理解でき脳は面白いと思った。例えば、素早く読んだりしようとすると脳が勝手に操作してしまい、脳がバグってしまう。だから、ゆっくり丁寧に読んだりすることを心がけたいと思った。また、小さな子に「早くしなさい。」ということは一番脳をバグらせ、その後の学力にも関わるという話を聴いて、言葉で脳が動くことを知った。だから、もし小さな子どもがいて接するときは、そういうことに気をつけたいと思った。



**幼児教育分野(会津大学短期大学部 河原田 潤 先生)「幼稚園の先生・保育士を目指す生徒さんたちへ」**

二人組になって、歌いながら園児とのあいさつの仕方を体験したのがとても楽しかった。それ以外にも四年制大学と短大との違い、どのような園児を育てたいのかなどについて詳しく話して下さったので、とても分かりやすく、ためになるお話を聞くことができた。体を動かしながら色々なことができた。そして、以前よりもっと保育士を目指す気持ちが強くなったので、勉強をがんばろうと思えた。園児とのコミュニケーションの大切さを感じられる授業だった。



**理学分野(福島大学 小沢 喜仁 先生)**

**「新しいモノづくりとコトづくりー機械を創るー」**

まずはじめに、「引張る」や「ねじる」などの再定義づけをした。また、「機械」と「装置」の違いについても知ることができた。CFRP やフェノール樹脂など、難しい言葉が出てきてよく分からなかった。お話の中でたびたび「化学」や「物理」の知識が出てきて、理学を学ぶ際、この2つの科目は必要不可欠なんだなあとと思った。ものづくりには様々な過程があり、たくさんの条件のもと何度も繰り返し試験をして完成または廃棄されていると知り、厳しい世界であることが分かった。



**工学分野(山形大学 松葉 豪 先生)**

**「自動車に使われる高分子」**

環境や安全に配慮した研究をすることが、これからの社会において重要であることを改めて学んだ。身近なところで軽量化のために高分子や樹脂が使われていたり、身近な物の細かな部分に部品として使われてる高分子について知ることができて、分子や化学に対する関心が高まった。そして、これまでとは工学部に対するイメージが変わった。好奇心をもとに社会の役に立つ研究を繰り返す姿勢、高分子の様々な点での有用性が学べる貴重な時間だった。



**看護分野(福島県立医科大学 三浦 浅子 先生)「看護職への道を探求しよう / がん医療・看護を考えてみよう」**

今回の講義を聴いて看護師になることへの意欲が高まった。また、看護師にはいろいろな種類があることを初めて知った。特に、認定看護師という救急看護や感染看護などの仕事を行う看護師に興味を持った。現在はコロナ禍により医療が大変な時代になっているので、少しでも力になれるようにしたいと感じた。更に、三浦先生がおっしゃっていた「患者さんをうらぎらない」という言葉から、患者さんに寄り添い、共に医療を回しているということがわかり、とても心に響いた。三浦浅子先生が講義して下さった深いお話を胸に秘めて、しっかり目標に向かって勉学に励みたい。

